

別枠記事
「大恐慌からどうやって脱出したのか？」

北村行伸
一橋大学経済研究所

世界的を大きく揺さぶった 1929 年の大恐慌の原因は何か？そこからどのように脱出したか？

大恐慌の遠因としては、第一次世界大戦でヨーロッパが疲弊している隙を突いて米国や日本が農産物や工業製品を輸出し、国内生産拠点を拡大したこと、金融機関もそれに応じて過剰に融資を拡大していったことがある。

また、戦前の金本位制への復帰を目指したことも事後的には貿易赤字国にデフレ圧力をかけてしまった。さらに戦前の覇権国であった英国が債務国に転落し、米国は新覇権国としてリーダーシップをとる準備がまだできていなかったことも大きい。

では、どう脱出したか。鉱工業生産量で見ると、1929 年水準にいち早く復帰したのは 1931 年に旧平価を切り下げた英国やスカンジナビア諸国。次に早かったのは為替レートの変動を認めた管理通貨国であった。最も回復に時間がかかったのはフランス、ポーランド、米国など金本位制に固執した国であった。

米国やフランスが金本位制に固執したのは、この両国が世界の金の主要保有国であったことが大きい。大恐慌からの脱出には、金融政策レジームの確固とした転換が重要であったことがわかる。

しかし、話はそれだけでは終わらない。

各国がなりふり構わずに大恐慌からの脱出を企てるようになると、たとえば、英国が英連邦圏でブロック経済を形成し、米国も内向きの理由で国際連盟に加盟せず、自由貿易の拡大に消極的姿勢を示した。国際的な対立が不可避になるような方向に世界が向かってしまったのである。

最終的に世界各国にとって新経済レジームが成立したのは第二次世界大戦後、国際連合や国際通貨基金など国際協調体制ができてからだった。さらに言えば、敗戦国のドイツや日本が国際社会に復帰してはじめて大恐慌からの呪縛が解かれたのである。

表3 ヨーロッパにおける生産力の回復 1932～1937年(1929=100)

	1932(1)	1935(2)	1937(3)
1931年に平価切り下げ			
スウェーデン	89	123	152
フィンランド	88	121	152
デンマーク	90	124	135
イギリス	89	113	130
ノルウェー	94	108	130
通貨管理国			
ルーマニア	88	122	132
ドイツ	61	100	127
イタリア	86	96	111
ハンガリー	86	102	108
ユーゴスラビア	76	90	107
オーストリア	62	80	106
チェコスロバキア	75	74	93
金本位制			
オランダ	84	91	103
ベルギー	85	99	101
ポーランド	58	75	97
フランス	74	72	81
その他			
ギリシャ	101	141	152
スペイン	84	86	52
ヨーロッパ合計	72	86	103

出典) Charles H. Feinstein, Peter Temia and Gianni Toniolo (1997)
The European Economy Between the Wars, Oxford.
 Table 9.3., P.172.